

未来を測る、未来を創る企業を目指して

弊社は、昭和46年11月、農業土木の測量会社として富岡町に創業した企業です。その後、業務の拡大に伴い、双葉測量設計株式会社として組織を改め、そして東日本大震災後の平成25年に株式会社ふたばに社名を変更して、現在に至っています。

東日本大震災と原発事故により、浜通りの地方を始め沿岸部は甚大な被害を受け、富岡町にあった弊社は全社避難を余儀なくされ、社員もそれぞれバラバラとなってしまいました。

「一日も早く事業を再開し、地元相双地域等に恩返ししなければならない」との決意で、震災から1か月後の4月に避難先の郡山市に本社機能を移し、相馬市といわき市にも事業所を構え、業務を再開しました。

震災前は、農業土木を中心とした測量設計業務が中心でしたが、「復興のためならどんな仕事でもやろう」との思いから仕事の幅を広げてきました。建設コンサルティングでは、災害復旧等を中心に海岸、河川、漁港、下水道、土地改良のほか、環境コンサルティングでは海外の沿岸域の環境保全を取り扱っています。

弊社は、ドローン、3Dレーザースキャナ、MMS、ラジコンボート等を組み合わせて、陸・海・空からいろいろな角度で三次元の測量ができることを得意としております。例えば、富岡町の観光名所である夜ノ森の桜並木もドローンやレーザースキャナ等により測量し、立入りが制限された街並みや施設なども三次元データ化してきました。

お陰様で、震災後の厳しい状況の中、CSR活動も含め、社員が一丸となって乗り切ってきたことが認められ、平成27年3月に、経済産業省の「頑張る中小企業300社」に選定して頂きました。

昨年4月に富岡町は避難指示解除となり、町役場、県の出先機関、警察署、一部の金融機関や商業施設等が戻ってきました。弊社も、復興の加速化に貢献するうえで、地元へ戻ることが不可欠との思いから、富岡に本社社屋と社宅の整備を進めてきました。そして、8月末からは相馬といわきの事業所も統合し、新社屋での業務再開とともに、同時に完成した郡山支社社屋での業務もスタートさせました。

重要なのは、帰還する自治体等の傍にある存在だと考えています。県内とはいえ、遠く郡山から富岡に通うよりも、近くにいれば安心という面があります。また、国家プロジェクトとして復興業務に携わる現地機関や企業ともお付き合いできることで、違ったサービスが根付くチャンスもあると考えています。

先日、富岡町内のお年寄りが社屋のデッキに腰を掛けながら、井戸端会議をしているのを見かけ、思わず「ありがとうございます。」と声を掛けました。社屋を地域住民にも憩いの場としても利用して頂きたいとの思いがあり、イメージどおりの風景でもありました。「地域とともに歩む」ことの大切さを改めて実感致しました。

弊社は、「グローバル」「スピーディ」「フレキシブル」の三大目標を掲げ、高度な技術力で様々な課題の解決に取り組んでいきたいと考えております。そして、付加価値の高いサービスを目指すことを通じて、「未来を測り、未来を創る」ことの具現化に努めていきたいと思っております。

最後になりますが、今後とも富岡町や双葉郡を始めとした県内各地の復興・創生、そして発展に貢献できるよう努めてまいりますので、皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い致します。

震災後のわが社

～被災地再開事業所紹介～

株式会社 ふたば

所在地：双葉郡富岡町

事業内容：

G空間情報

建設コンサルティング

測量・用地調査

環境コンサルティング

海外コンサルティング



夜ノ森の桜並木 三次元データ化



平成29年8月に完成した富岡本社



富岡本社内の執務状況



社内有志によるCSR活動



平成29年8月に完成した郡山支社